

経営一転語 103 優柔不断は誤った決定より悪い

会社が、どのような方向に進むかを「決定」するのは、社長の仕事です。

いかに会社の中に優秀な人がいようとも、社長以外の他の人には、方向性を決定することはできません。

航海に例えるならば、船の進む方向を決定するのが社長なのです。

このような重要な意味があることを考えれば、社長は「決めない」という優柔不断な態度をとることが一番いけないことです。

「何も決定しない」ことは、「誤った決定をする」ことよりも悪いことなのです。現状維持であれば、これまでのやり方が、正しいのか誤っているのかが分かりません。社会環境が変わり続けているのですから、往々にして時代適合していない可能性が高いのです。経営は環境適応業です。移り変わる環境に柔軟に適応し、変化し続けなければなりません。

たとえ、誤った決定をしたとしても、誤ったことが分かった時点で、ただちに軌道修正をすればよいのです。結果的に正しい判断をしたこととなります。失敗を恐れてはなりません。失敗をしたことがない経営者はチャレンジをしたことがない経営者です。失敗は宝物です。その失敗から知恵を得て器をひろげ、伸びていけばよいのです。

社長はいつも決定、決定の連続です。

そして、その決定するための情報収集を怠ってはいけません。情報収集のために、社長はお客様訪問をし、ニーズを探り、競合他社の状況を把握し、外部環境を目で見、耳で聞き、肌で感じる必要があるのです。これを目診と言います。

だから、社長が会社にいるのは、週一日で十分と言えるでしょう。